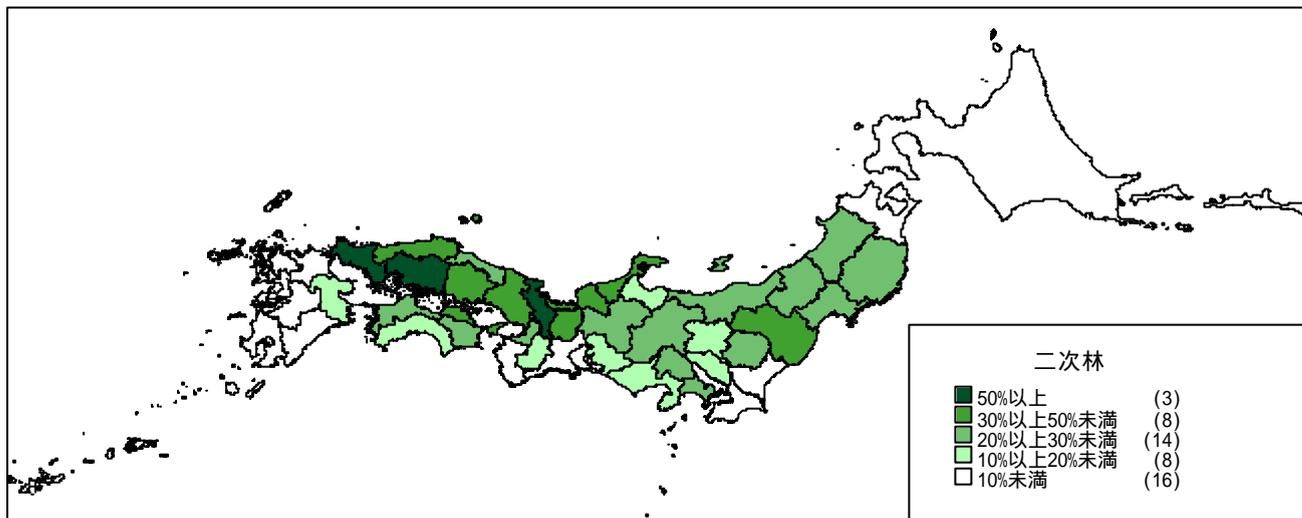
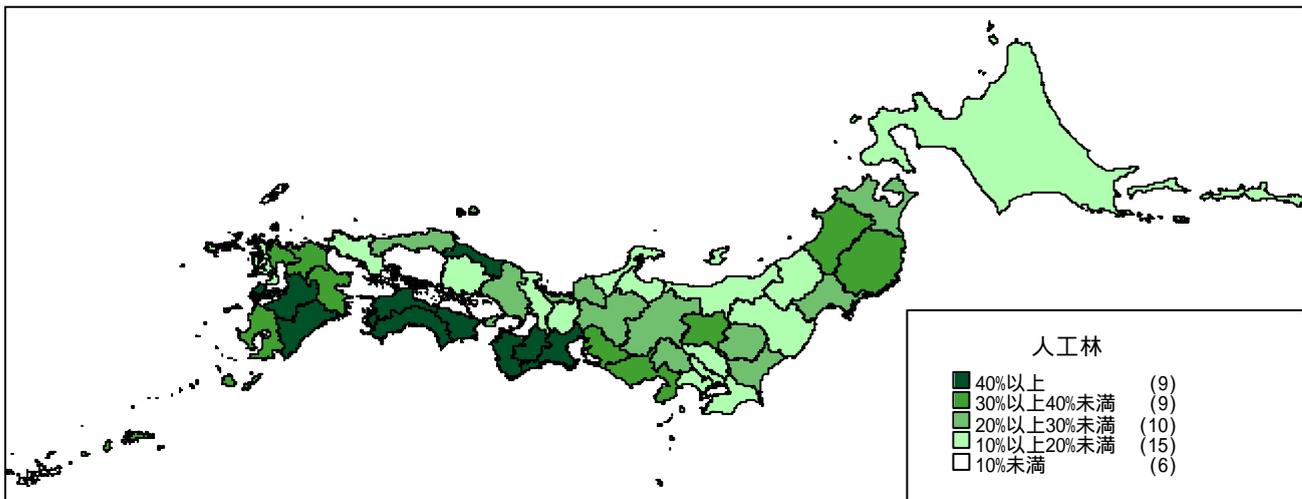


改変の歴史の浅い日本列島の南北端と、積雪が多く山地の多い富山県に多く残されている。ついで多く残っている地域は、青森、新潟の多雪山岳地域が多い県と島嶼部を多く持つ長崎県となる。



二次林の全国的な分布にははっきりした特徴があり、西日本に集中している。近畿、西中国地方では歴史的に燃料・用材としての利用が進んだため、その地域差が表れている。これら地域外では薪炭生産（農耕地にあっては農用林）として利用されていたが、燃料革命の結果生産は激減し、現在これらの二次林では積極的な木材利用はなされていないものと考えられる。



二次林と同じく集中する傾向が見られる。中央構造線の西南外帯に殆どが集中している。これら地域では有名林業地が成立し（尾鷲林業、吉野林業、木頭林業など多数）、大消費地が近いという有利な条件のもと歴史的に発展してきた経緯がある。